

社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 平成28年11月11日(金) 5校時
学 級 2年A組 男子15名 女子14名 計29名
会 場 被服室
指導者 藤村 和弘

1 単元名

帝国書院「中学生の地理」第2部第3章 北海道地方

2 単元について

本単元は学習指導要領【地理的分野】の内容「(2)日本の様々な地域」の中の中項目「ウ 日本の諸地域」にあたり、いくつかに分けた日本の各地域について、あらかじめ定められた7つの考察の仕方を中核にして地域的特色をとらえさせることをねらいとしている。本小単元で扱う北海道地方は長らく蝦夷地とよばれ、本州とは大きく異なる歴史を持つ地域である。もともとアイヌ民族が暮らしていた土地に和人としての日本人が移り住むようになったのは鎌倉時代で、江戸時代には近海でとれるニシンなどを求めて和人が増えはじめた。明治時代になると政府が募った入植者によって、現在の北海道の基礎が造られた。全国の1/4を占める広大な耕地面積を利用した大規模な農業で、多くの農産物が日本一の生産量となっている。また日本海とオホーツク海、太平洋という3つの海に囲まれているため漁業も盛んである。これらの歴史や独特の自然環境は現在も貴重な観光資源となっており、今年3月の北海道新幹線の開通によって今後さらに多くの観光客が訪れることが期待されている。

本学級の生徒は何事にも前向きで社会的事象への関心も非常に高い。そのため授業中は挙手や発言が多く見られる。また発言が少ない生徒も自分の考えをワークシートにまとめたり、グループ活動の中で意見交換をしたりして、熱心に授業に取り組んでいる。課題としては発言に根拠がないものが見られることや、粘り強く取り組むことが苦手な生徒が多いことである。事前アンケートによると北海道地方に対するイメージで多かったのは「寒い」「広い」で、その他に複数の海産物や乳製品が挙げられたが、いずれも自然に関するものであった。4月と9月に実施した生徒質問紙調査によると、「社会科の学習が好きか」の質問に肯定的な回答をしている生徒は73%（4月58%）、「社会科の授業がよく分かるか」については93%（4月51%）であった。今後は社会科が苦手な生徒に対して小まめな指導を心掛け、社会科を好きな生徒を増やすとともに、積極的肯定の割合を増やしていきたい。

『学習指導要領解説社会編』には、この学習を進めるために留意することとして、①7つの考察の仕方を単元全体ですべて取り扱うこと、②地域区分の仕方や指導の順序については適切に決めることができること、③単元全体を通して地理的な見方や考え方や地理的技能を身に付けることができるように計画的に指導すること、④中核とした地理的事象と他の事象とを有機的に関連付けることなどがあげられている。①については各地域の地域的特色を7つの考察の仕方から整理し、その上で中核となる考察の仕方を決定した。なお地域区分に関わっては、生徒に最もなじみ深い地方別の区分を採用し、中国地方と四国地方をひとまとめとして日本を7つの地域に区分した（資料1）。②と③については、その留意点に加えて次の単元「身近な地域の調査」との関連を図った時に、岩手県から距離的に遠い地方から近い地方へ迫ってくる方が自然な流れだと考え、指導の順序や評価の観点を定めた。また『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』には、それぞれの小単元で4観点全てを評価するのではなく、評価の観点を絞り、重点化を図ることが示されている。これらのことを鑑み、単元の指導と評価の計画を設定した（資料2）。④については、資料1を基に他の地域との関連を常に意識した発問や板書によって、一度身に付けた知識が応用可能なものであることを実感させられるように努めたい。

3 小単元の指導計画

(1) 目標

ア 北海道地方の地域的特色を、歴史的背景を中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。【思考・判断・表現】

イ 北海道地方について、歴史的背景を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解させ、その知識を身に付けさせる。【知識・理解】

(2) 評価規準

社会的な思考・判断・表現	社会的な事象についての知識・理解
北海道地方の地域的特色を、歴史的背景を中核とした考察の仕方を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を論述したり地図に描きこんだりして適切に表現している。	北海道地方について、歴史的背景を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

(3) 小単元の展開

* 6つの思考活動

時	主な学習内容	評価【観点】	*	評価方法
1	資料から北海道地方を特色付ける地理的事象を見出し、小単元の学習課題を設定する。	北海道地方の景観写真や地図などを読み取ったり、他地域のようにすと比較したりすることで、北海道地方の特色を見出している。		■発言 ■ワークシート
2 本時	北海道の稲作について歴史的背景から考察し、その過程や結果を適切に表現する。	石狩平野が国内最大級の稲作地帯となった理由について、大規模な土地改良と稲の品種改良という2つの歴史的背景を「とらえ」、その過程や解釈した結果を論述している。【思考・判断・表現】	3 ・ 5	■発言 ■ワークシート
3	北海道の畑作や酪農、漁業について歴史的背景から考察し、その過程や結果を適切に表現する。	北海道で農業や漁業が盛んな理由を歴史的背景が2つ以上含むようにして「とらえ」、その過程や解釈した結果を論述している。【思考・判断・表現】	3 ・ 5	■発言 ■ワークシート
4	北海道の観光業について歴史的背景から考察し、その過程や結果を適切に表現する。	北海道の観光業の発達について歴史的背景を2つ以上含むようにして「とらえ」、その過程や解釈した結果を論述している。【思考・判断・表現】	3 ・ 5	■発言 ■ワークシート
事後	小単元の学習課題について、北海道のまとめワークシートに適切に表現する。	①北海道のまとめワークシートに、複数の視点から「とらえた」内容を論述している。【思考・判断・表現】 ②定期テスト【知識・理解】	3	■北海道のまとめワークシート ■定期テスト

4 本時の指導

(1) 目標

北海道地方の稲作の特色を、大規模な土地改良と稲の品種改良という2つの歴史的背景から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現させる。【思考・判断・表現】

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準（概ね満足できる状況B）	努力を要する生徒への手立て
思考・判断・表現	石狩平野が国内最大級の稲作地帯となった理由について、大規模な土地改良と稲の品種改良という2つの歴史的背景を「とらえ」、その過程や解釈した結果を論述している。	・「石狩川」「泥炭地」「寒さ」の語句に注目して調べたりまとめたりするよう促す。

(3) 指導構想

ア 本時のねらいにかかわって

稲作は今からおよそ7千年前～1万年前にインド東北部や中国南西部で始まったといわれている。日本では縄文時代の後期から弥生時代にかけて稲作が始まり、その後の国づくりに大きな影響を与えてきた。そのことは現在も米が我々の主食となっただけでなく、お正月やお月見、東北地方の夏祭りなどの年中行事や様々な加工品が我々の生活に根付いていることから感じら

れる。近年では食の多様化による米の消費量の減少や、食糧管理法の廃止と厳しい価格競争、TPP（環太平洋パートナーシップ）協定と米の貿易自由化、農業人口の減少などの課題を抱えながらも、ほぼ100%の食料自給率を維持している。

本時で扱う石狩平野は、現在日本有数の稲作地帯であるが、もともと泥炭地とよばれる農業に適さない湿地であり、そこを流れる石狩川（現在日本で2番目に流域面積が大きい）も頻繁に洪水を繰り返す暴れ川だった。明治初期、政府によって開拓使が置かれ大規模な土地改良が始まり、農業と軍事訓練を行う屯田兵や囚人、失業した武士などの移民が作業に従事した。石狩平野をはじめ道内37か所には屯田兵村が作られ、その名残は「伊達市（仙台藩）」、「札幌市北区屯田」など現在の北海道の地名にも残っている。労働は過酷を極め、多くの囚人が命を落とした事例もある。また北海道にもともと住んでいたアイヌの人々にとっては入植によって土地を奪われ生活や文化を否定されるなど、この上ない苦しみを味わうことになった。石狩平野の土地改良は、沢山の人の努力と犠牲によって進められたともいえる。

また暖かい地方が原産である稲を北海道で栽培するために、長年にわたって稲の品種改良が進められた。その結果、寒冷な気候に耐えられる品種が開発され大量生産が可能になった。さらに品質を高めるための改良が重ねられ、北海道特産の銘柄米が生まれた。「ゆめぴりか」などの銘柄米は、全国的にも高い評価を得ている。さらに北海道では全国に比べて所得の50%以上を農業所得が占める主業農家の割合が高く、若い世代の農業従事者も多いのが特徴である。

本時では厳しい自然を克服するために多くの人の努力があったことを、それぞれの立場に沿った資料を読み取ることで、多面的・多角的にとらえさせたい。本時で獲得する知識は次時に扱う畑作や酪農とも関連が深いので、しっかり理解させたい。


イ 6つの思考活動にかかわって

本時で扱う思考活動は「仮説を立てて検証する」と「とらえる」であるが、特に「とらえる」活動に重点を置いて授業を進めていく。一つ目の「とらえる」思考活動は展開部分で、複数の資料から有用な情報を読み取り、それをまとめる場面である。この際ワークシートの構成を工夫し、一つひとつの資料から読み取った情報を書く部分と、それらをまとめる部分を区別できるようにしたい。二つ目の「とらえる」思考活動は終末部分で、それまでの活動で得た複数の歴史的背景をまとめて論述する場面である。この際書き出しを指定することで、学習課題に正対したまとめとなるように配慮したい。


(4) 展開…次ページ

(5) 板書計画


原野・森林 (アイヌの土地) 単元の学習課題 北海道地方は、どのようにして寒さを克服し、産業を發展させてきたのか？




泥炭地



暴れ川



亜寒帯(寒さ)



ホーレス=ケブロン(米)
北海道は寒すぎて稲作は無理だ…。

北海道では、なぜ稲作が盛んになったのだろう？

予想
まとめ

☆石狩平野の稲作（産業）

原野・森林 (自然) → 客土 (歴史)

泥炭地 (自然) → 川をまっすぐにした (歴史)

暴れ川 (自然) → 稲の品種改良 (寒さに強い稲を開発)

亜寒帯 (自然) → 稲の品種改良 (寒さに強い稲を開発)

→ 開拓使を置き、屯田兵が開発


…アイヌの人々の苦悩

土地改良

米の収穫量

順位	都道府県名	収穫量 (kg)
1	新潟県	619,200
2	北海道	602,600
3	秋田県	522,400
4	山形県	400,900
5	福島県	365,400

石狩平野の水田地帯



全国2位の生産量へ

(4) 展開

段階	学習活動と内容	指導上の留意点	6つの思考活動との関わり
導入 8分	1 既習事項の確認 2 学習課題の設定	・米作りに向かない過去と生産量が多い現在の資料から学習課題を設定する。	6つの思考活動との関わり
北海道では、なぜ稲作が盛んになったのだろうか？			
展開 32分	3 予想（結果の見通し） ・面積が広い ・耕地整理 ・水が豊富 ・品種改良 4 資料（方法の見通し）の確認 5 資料の情報の読み取り（個人） 資料1 おもな都道府県の稲の作付面積 資料2 石狩平野の土地改良 資料3 開発と屯田兵，アイヌ民族 資料4 稲の品種改良 6 資料をもとにした話し合いと発表（グループ） 7 ふかめる 資料5：アイヌ民族の苦悩	・一人ひとりの課題意識を確認する。 ・班や全体で交流し、予想をもてなかった生徒にも予想をたてさせたり、より妥当な予想となるようにしたりする。 ・課題を検証するためには、どのような資料が必要なのか考えさせる。 ・机間指導を行い、活動が停滞している生徒や班に積極的に声をかける。 ・資料から次のことを読み取る。 資料1「北海道の作付面積は全国的に見ても大きいこと」 資料2…「客土や治水工事など土地の改良を行ってきたこと」 資料3…「屯田兵による開発やアイヌ民族の苦悩があったこと」 資料4…「量から質へ、2段階の稲の品種改良が行われたこと」 ・できるだけ端的に見やすくまとめさせる。 ・開発を多角的な視点からとらえさせ、気持ちに寄り添わせる。	6つの思考活動[5] …班や全体で交流し、 仮説を立てる 。 6つの思考活動[3] …複数の資料から読み取った内容をまとめ、 課題に対する答えをとらえる 。 6つの思考活動[5] …班での話し合いや全体での練りあいを通して 検証する 。
終末 10分	8 まとめ ・ワークシートに記入し、発表する。	・まとめを書かせる前に、本時の取り組みを簡潔に振り返る。 【評価】 石狩平野が国内最大級の稲作地帯となった理由について、大規模な土地改良と品種改良という2つの歴史的背景を とらえ 、その過程や解釈した結果を 論述 している。	6つの思考活動[3] …学習課題に対する答えを、複数の視点から とらえる 。
生徒の記述例（B評価） 記入例・書き出しを指定する）北海道で稲作が盛んなのは、明治以降に屯田兵による大規模な土地改良が行われたことと、寒さ対策からおいしさの追求へと2段階の品種改良が行われたからだということが分かった。			
	9 次時の予告	・稲の作付面積が減少し、転作が増加していることから次時の予告につなげる	

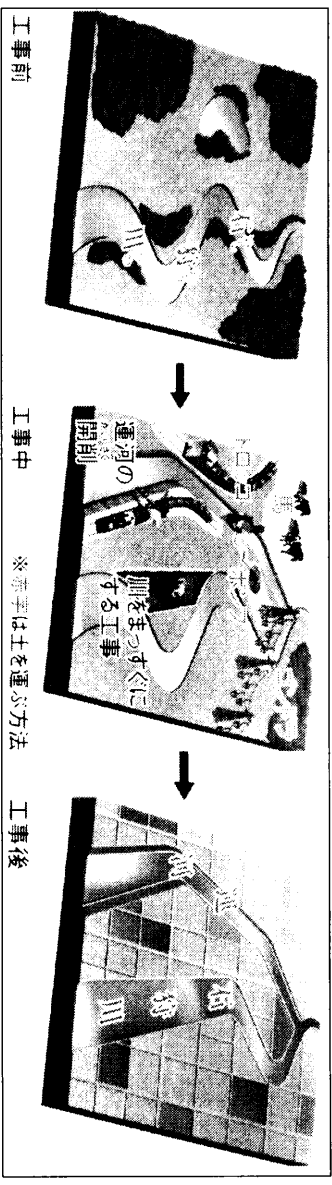
資料 1 おもな都道府県の稲の作付面積(2015年度)

※ 作付面積…田畑で実際に作物を植えている面積のこと。
 * ha (㌺) …面積を表す単位。1 ha = 100m × 100m

順位	都道府県名	作付面積
1	新潟県	11万7500 ha
2	北海道	10万7800 ha
3	秋田県	8万8700 ha
4	茨城県	7万 300 ha
5	宮城県	6万6700 ha

岩手県 5万1400ha (10位)

資料 2 石狩平野の土地改良



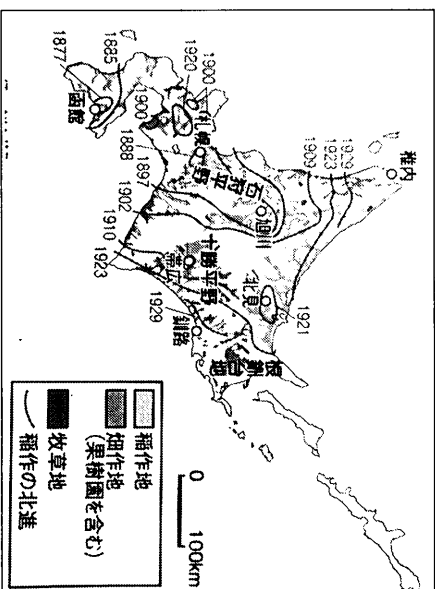
石狩平野には泥炭地とよばれる農業に適さない湿地が広がっていました。明治時代になり、人々はその改善のため、農業に適した土を他の土地から運び込む客土を行ったり、水はけをよくするために地下に水路を通したりしました。機械がない時代には馬ソリに土を載せて山間部を往復する過酷な労働でした。また洪水を繰り返していた石狩川も大規模な工事によって整備されました。

資料 3 開発と屯田兵、アイヌ民族



明治政府は蝦夷地を北海道と改め、欧米の技術を取り入れた開発を進めました。開拓の中心になったのは、北海道以外の各地から移住してきた農業兼業の兵士である屯田兵などでした。開発が進むにつれて先住民であるアイヌの人々は土地や漁場をうばわれただけでなく、アイヌ民族の伝統的な風習や文化などを否定する同化政策が進められました。

資料 4 稲の品種改良



暖かい地方が原産である稲を北海道で栽培するために、人々は寒さに強く、短い期間で実る稲をつくるために品種改良を重ねてきました。現在では量だけでなく、おいしさの追求に力を入れて改良が進められ、全国的にも高い評価を獲得する銘柄米も栽培できるようになりました。

【資料1 「日本の諸地域」各地域の特色と中核となる考察の仕方】

*『帝国書院 中学生の地理』を基に作成。網掛けの部分は、採業者が中核としたいと判断した地点。

中部地方	関東地方	東北地方	北海道地方
<ul style="list-style-type: none"> ・北陸～中央高地～東海(3つの地域) ・北陸と豪雪地帯 ・日本アルプス、扇状地 ・日本一長い信濃川 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本最大の関東平野 ・流域面積日本一の利根川 	<ul style="list-style-type: none"> ・火山と温泉、発電 ・三陸のリアス海岸 ・やませと冷害 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本最大の面積 ・亜寒帯気候 ・濃霧や流水
<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大都市圏 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本最大の東京大都市圏 ・ヒートアイランド現象 ・過密と都市問題 ・山間部の過疎 ・夜間人口と昼間人口 	<ul style="list-style-type: none"> ・東北唯一の政令指定都市仙台 ・山間部に多い過疎地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の人口の1/3が札幌市に集中
<ul style="list-style-type: none"> ・日本最大の中央工業地帯と自動車工業 ・銘柄米、果樹、茶の栽培 ・抑制栽培、施設園芸農業 ・ミネラルウォーター 	<ul style="list-style-type: none"> ・京浜工業地帯と印刷、出版業 ・京華、北関東工業地域 ・情報通信技術関連産業 ・近郊農業 	<ul style="list-style-type: none"> ・品種改良によって盛んになった米の生産(銘柄米) ・果樹栽培 ・とる漁業一育てる漁業 ・工業団地の建設 	<ul style="list-style-type: none"> ・品種改良と銘柄米 ・機械化された農業と輪作 ・盛んな酪農 ・養殖業と栽培漁業 ・観光業
<ul style="list-style-type: none"> ・扇状地の利用(養蚕と製茶業の衰退→果樹栽培、精密機械工業の発達) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府 ・江戸幕府 ・首都東京 	<ul style="list-style-type: none"> ・蝦夷と阿豆流為 ・金と馬の産地 ・奥州藤原氏と金色堂 ・東日本大震災と復興 	<ul style="list-style-type: none"> ・開拓使と屯田兵 ・土地改良 ・計画的な都市づくり ・アイヌの文化を残す地名
<ul style="list-style-type: none"> ・米作りの副業として伝統的工芸品が発展(地場産業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・官庁街と集中する機関 ・沢山の外国人と多文化共生を目指した町づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りと夏祭り ・米の不作とそば、小麦を使った郷土料理 ・木を原材料にした伝統的工芸品 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さに対応した住宅や道路標識
<ul style="list-style-type: none"> ・中部国際空港(セントレア) ・北陸新幹線の開業(2015年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・張り巡らされた鉄道網 ・日本最大の貿易額を誇る成田空港 ・東京港、横浜港 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道や高速道路沿いに点在する中核都市 ・新幹線の開業と、区間延長 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の約2割が外国人 ・北海道新幹線の開業(2016年)
<ul style="list-style-type: none"> ・愛知・名古屋夏季アジア大会(2026年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック(2020年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民体育大会の開催(2016年) ・台風10号の水害(2016年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・北方領土の問題 ・台風10号の水害(2016年)

九州地方	中国・四国地方	近畿地方
<ul style="list-style-type: none"> ・火山とカルデラ、シラネ合地、火山、温泉、発電 ・亜熱帯気候とサンゴ礁 ・台風 ・大陸に近いこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・山陰～瀬戸内～南四国(3つの地域) ・水不足のため池 ・日本最大の鳥取砂丘 	<ul style="list-style-type: none"> ・若狭湾と志摩半島のリアス海岸 ・日本最大の琵琶湖 ・兵庫県のため池
<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市と福岡都市圏 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が集中する瀬戸内 ・過疎化が進む山陰や離島と、地域おこし 	<ul style="list-style-type: none"> ・京阪神大都市圏とニュータウンの形成
<ul style="list-style-type: none"> ・畜産(ブロンラ一、豚) ・野菜の促成栽培 ・二毛作 ・IC(集積回路) ・沖縄などの観光業 	<ul style="list-style-type: none"> ・重工業の発達と石油化学コンビナート ・野菜の促成栽培 ・町なみや漫画を生かした観光業 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神工業地帯 ・高度な技術を持った中小企業
<ul style="list-style-type: none"> ・吉野ヶ里遺跡 ・大宰府 ・琉球王国と首里城 ・宮宮 八幡製鉄所 ・北九州工業地帯と公害 	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内の海上交通の発達 ・石見銀山 ・造船業の発達と瀬戸内工業地域の形成 ・広島と原子爆弾 	<ul style="list-style-type: none"> ・長らく日本の首都 ・古都 ・阪神・淡路大震災(1995)と復興
<ul style="list-style-type: none"> ・長崎くんちなどのお祭りに残る大陸の影響 ・辛子明太子 ・織物、染物などの伝統的工芸品 	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲大社 ・厳島神社 ・阿波おどり 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の数が多い(世界遺産の建造物を含む) ・清水焼や西陣織などの伝統的工芸品
<ul style="list-style-type: none"> ・大陸に近い ・韓国や中国への直行便 ・大陸へのフェリー 	<ul style="list-style-type: none"> ・本州四国連絡の開通 ・高速道路網の整備 ・農産物を首都圏に出荷可能になった 	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖の環境問題 ・阪神工業地帯と公害 ・歴史的な町なみを守る取り組み(京都市内、姫路城) ・紀伊山地と環境保全 ・姫路城の工事を完了(2016年3月)
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州工業地帯と公害 ・北九州エコタウン ・屋久島の自然保護 		
<ul style="list-style-type: none"> ・その他 ・(固有の話題、時事ネタなど) ・沖縄と米軍基地問題 ・熊本地震(2016年4月14日) 		
<ul style="list-style-type: none"> ・中核となる考察の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域との結びつき 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全

【資料2 「日本の諸地域」単元の掛 評価の計画】

*『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』を基に作成

*家庭学習として「地方のまとめシート」に取り組み、小単元のまとめとする。

単元名	単元を貫く課題と小単元の課題		評価の観点			重点を置く評価活動
			関	思	技知	
九州地方 (5時間扱い)	1	九州地方を特色付ける地理的事象から単元の課題を設定する 厳しい自然環境は、九州地方の人々の暮らしにどのような影響を与えているのだろうか？	○		○	「自然環境」を中核とした考察の仕方を基に九州地方の地域的特色を考察し、意欲的に取り組んでいる。 評価方法(関心・意欲)…記述量を重視してB評価とする
	2	火山や台風が多い中、九州地方の人々はどなん暮らしをしているのだろうか？				
	3	なぜ九州地方の農業生産額は、全国1位なのだろうか？				
	4	アジアに近いことは、九州地方にどのような影響を与えているのだろうか？				
	5	南西諸島の人々は、自然環境を生活にどのように生かしているのだろうか？				
中国・四国地方 (5時間扱い)	1	中国・四国地方を特色付ける地理的事象から単元の課題を設定する 交通網の整備や他地域との結びつきの変化は、中国・四国地方の人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか？			○	中国・四国地方の地域的特色について、「他地域との結びつき」を中核にして適切に資料を選択、収集し、そこから適切に読み取ったことを、ワークシートに記入している。 評価方法(技能)…毎時間2つ以上の資料を読み取ることをB評価とする
	2	本州四国連絡橋の整備によって生活はどのように変化したのだろうか？				
	3	瀬戸内工業地域は、なぜ化学工業の割合が高いのだろうか？				
	4	農産物はどのようにして海外や国内の市場に出荷されているのか？				
	5	交通網の整備は、過疎化が進む地域にどんな影響を与えたのか？				
近畿地方 (5時間扱い)	1	近畿地方を特色付ける地理的事象から単元の課題を設定する 近畿地方の人々は、環境を守るために、どのような生活をおくっているのだろうか？	○		○	近畿地方の地域的特色について、「環境問題や環境保全」を中核にして多面的・多角的に考え、その過程や結果をワークシートに記入している。 評価方法(思・判・表)…グループでの活動を通して、2つ以上の視点から検討することをB評価とする
	2	琵琶湖の水をきれいにするために、どんな取り組みが行われているのか？				
	3	阪神工業地帯では、環境問題に対してどんな対策が行われているのか？				
	4	歴史的建造物を守るためにどんな取り組みが行われているのか？				
	5	林業・漁業では環境保全のためにどんな取り組みが行われているのか？				
中部地方 (5時間扱い)	1	中部地方を特色付ける地理的事象から単元の課題を設定する 中部地方の3つの地域で盛んな産業に、大きな違いがあるのはなぜだろうか？			○	中部地方の地域的特色について、「産業」を中核にして適切に資料を選択、収集し、そこから適切に読み取ったことを、ワークシートに記入している。 評価方法(技能)…毎時間必要な全ての資料を読み取ることをB評価とする
	2	東海地方では、なぜ輸送機械工業が盛んになったのだろうか？				
	3	なぜ東海地方では菊やキャベツの栽培が盛んなのだろうか？				
	4	なぜ中央高地で盛んな産業が変化してきたのだろうか？				
	5	なぜ北陸地方では稲作が盛んなのだろうか？				
北海道地方 (4時間扱い)	1	北海道地方を特色付ける地理的事象から単元の課題を設定する 北海道地方は、寒さを克服し、どのようにして産業や経済を発展させてきたのだろうか？	○		○	北海道地方の地域的特色について、「歴史的背景」を中核として多面的・多角的に考察したことをワークシートに記入している。 評価方法(思・判・表)…グループでの活動を通して、2つ以上の視点から検討し、適切にまとめていることをB評価とする
	2	なぜ北海道の米の生産量は全国2位なのだろうか？				
	3	農業や漁業は、どのようにして全国有数の生産量になったのだろうか？				
	4	北海道に沢山の観光客を集めるために、どんな工夫がされてきたのか？				
関東地方 (6時間扱い)	1	関東地方を特色付ける地理的事象から単元の課題を設定する 沢山の人が集まることは、関東地方の人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか？	○		○	関東地方の地域的特色について、「人口や都市」を中核として多面的・多角的に考察し、その過程や結果をワークシートに記入している。 評価方法(思・判・表)…グループでの活動を通して、2つ以上の視点から検討し、適切にまとめていることをB評価とする
	2	東京には、なぜ日本の全人口の約1/10もの人が集まるのか？				
	3	東京大都市圏には、どのような都市問題があるのか？				
	4	人口が多い関東地方では、どんな産業が発達しているのか？				
	5	工業地帯の形成は、人口の変化とどんな関係があるのか？				
	6	大都市周辺の人々の暮らしには、どんな影響があるのだろうか？				
東北地方 (5時間扱い)	1	東北地方を特色付ける地理的事象から単元の課題を設定する 東北地方には、どうして沢山の祭りや特徴的な食文化、伝統的工芸品があるのだろうか？	○		○	「生活・文化」を中核とした考察の仕方を基に東北地方の地域的特色を考察し、意欲的に取り組んでいる。 評価方法(関心・意欲)…記述量だけではなく、中核となる視点を基にしてまとめられているかをB評価とする
	2	寒い冬を克服し農業を発展させるために、どんな努力をしてきたのだろうか？				
	3	果樹栽培や漁業を発展させるために、どんな努力をしてきたのだろうか？				
	4	東北地方の祭りは、どのように発展してきたのだろうか？				
	5	人々の生活の変化は、東北地方の工業にどんな影響を与えているのか？				

授業プランニングシート

11月11日(金) 5時間目 2年A組 教科:社会 指導者 藤村 和弘

↓ 構想・立案

↑ 本時の流れ

1 本時のねらい * 評価規準 B について記述する

石狩平野が国内最大級の稲作地帯となった理由について、大規模な土地改良と品種改良という2つの歴史的背景を **とらえ**、その過程や解釈した結果を論述している。

評価の観点(評価方法) 思考・判断・表現 (発言・ワークシートの記入内容)

2 評価に達した生徒の姿 * B 評価に達した生徒の姿(反応例, 記入例, 評価問題の解答例等)を記述する

記入例・書き出しを指定する) 北海道で稲作が盛んなのは、明治以降に屯田兵による大規模な土地改良が行われたこと、寒さ対策からおいしさの追求へと2段階の品種改良が行われたからだということが分かった。

3 学習課題

北海道では、なぜ稲作が盛んになったのだろうか？

4 課題意識の持たせ方 * 生徒から課題を引き出すための手立てを具体的に示す

次の資料から、「厳しい自然条件なのに、北海道の米の生産量が全国有数である」ことを捉えさせる。

- ・北海道の寒冷な気候
- ・石狩平野の泥炭地
- ・暴れ川だった石狩川
- ・アイヌ民族がくらす土地
- ・都道府県別の米の収穫量(2015年)

5 課題を解決するための学習教材・資料・補助発問など

資料1: おもな都道府県の稲の作付面積

資料2: 石狩平野の土地改良

資料3: 開発と屯田兵, アイヌ民族

資料4: 稲の品種改良